

アメリカンフットボールの北海道学生選手権は15日、札幌市円山陸上競技場ほかで第4節の3試合を行い、甲子園ボウルにつながる1部リーグは北海学園大が札幌大を124-0で下し、札幌学院大と帯広畜産大は16-16で引き分けた。この結果、北海学園大が3勝で首位に立ち、試合のなかった北海道大が2勝で追う展開になった。

北海学園大は第1Q、最初の攻撃シリーズでQB佐和田健悟（4年、名寄高）からWR成田将吾（4年、北海道栄高）へのTDパスで先制すると、その後もRB丸山哲央（4年、旭川実高）の4TDラン、WR佐藤怜太（2年、札幌光星高）のキックオフリターンTD、DB松浦理温（1年、石狩南高）のインターセプトリターンTDなどで加点し、大勝した。札幌大はプレー可能選手が11人という厳しい条件もあり、大量失点を許した。

自慢のパスで191ヤード獲得に加え、ランでも138ヤードを稼ぐバランスの良い攻撃を見せた北海学園大だが、斎藤一翔監督は「インターセプトされるなどミスもあった。残る北大戦と札幌学院大戦に向けてオフENSEの完成度を上げたい」と気を引き締めた。4TDのRB丸山は「パワーランの持ち味を出せた。北大など強豪との戦いはインチ勝負もある。攻撃の起点としてランの力を見せたい」と意気込んでいた。

札幌学院大と帯広畜産大は最後まで目が離せない接戦になった。第2Qに札幌学院大がエースRBアンダーソン・真・グレン（3年、北広島西高）の42ヤードランで先制すると、帯広畜産大もWR山村達也（2年、大麻高）の1ヤードランで同点に。第3Qに札幌学院大がファンブルリターンTDを奪うと、帯広畜産大は第4QにFGとQB五十嵐将吾（2年、帯広三条高）からWR白川天悠（3年、札幌清田高）へのTDパスを決めて16-14と逆転。勝負あったかに見えたが、終了53秒前に札幌学院大守備が帯広畜産大のRBをエンドゾーン内でタックルしてセフティ（2点）を奪い、土壇場で追いついた。

初戦で339ヤード走ったアンダーソンを170ヤードに抑え込みながらもリーグ戦初白星を逃した帯広畜産大の浦田望HCは「カバーする選手を増やすなどアンダーソン対策を考え、タックルでファンブルもさせた。目標の3位に向け、これからが負けられない試合が続く」と改めて決意。LBからQBに転向して1年目の五十嵐は「最後の同点を許した場面は試合経験の差が出た。きょうの反省点をすべて解消して2週後の北星学園大戦に臨みたい」と力を込めていた。

第5節は23日、札幌厚別公園競技場で1部の北海道大-札幌大（午前10時）と2部の室蘭工業大-北海道科学大（午後1時）を行う。